

第3編 過去の地震被害.....	3-1
3.1 大分県の過去に起こった地震.....	3-1
【参考文献】 .....	3-3

## 第3編 過去の地震被害

### 3.1 大分県の過去に起こった地震

大分県内では、有史以来たびたび地震及び津波によって大きな被害を受けている。特に被害を及ぼした地震の震源は、伊予灘、別府湾、豊後水道、日向灘、南海道沖及び県内の臼杵－八代構造線と中央構造線及び別府－島原地溝帯の活断層が分布する領域である。近年では、昭和 50 年（1975 年）に大分県中部を震源とする地震が発生し、庄内町、九重町、湯布院町、直入町（いずれも当時の町）などで家屋倒壊等の大きな被害を及ぼしている。

このような災害の原因となった地震には、南海トラフや日向灘で発生したもの（プレート境界型地震）、県の内陸部や別府湾地域の断層が動いて発生したと考えられるもの（活断層による地震）及びこれらの地震以外の地震がある。

県内に被害を及ぼした地震の一覧を表 3-1 に示す。

表 3-1 大分県の主な地震被害一覧（1）

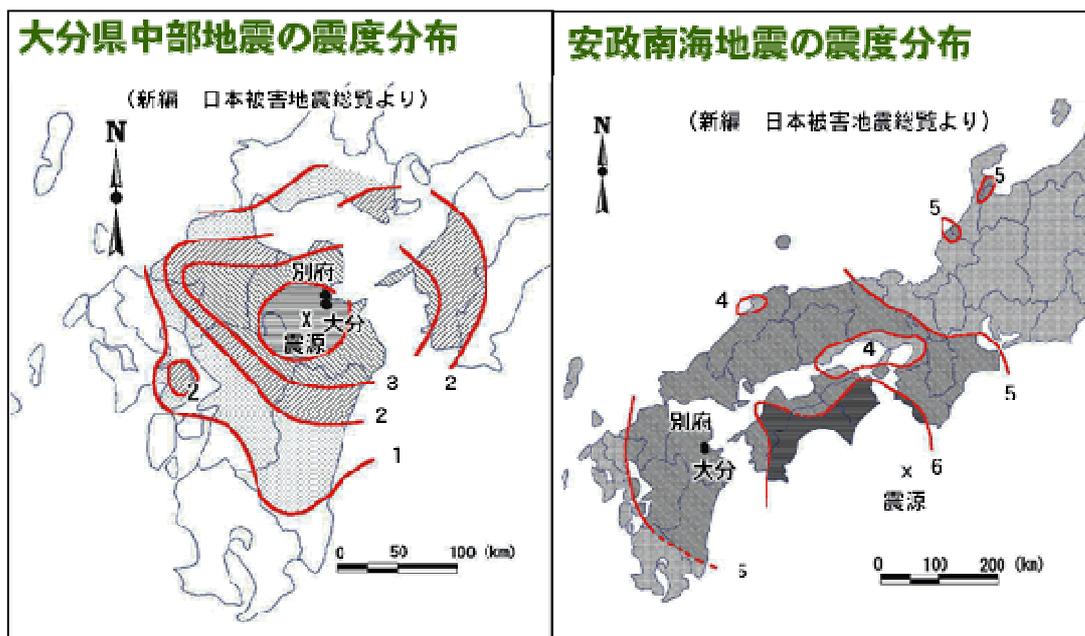
発生年月日	地震発生地域	県内の被害の概要
679 年 (天武 7)	筑紫 M=6.5~7.5	五馬山が崩れ、温泉がところどころに出たが、うち 1 つは間歇泉であったと推定される。
1498 年 7 月 9 日 (明応 7)	白向灘 M=7.0~7.5	九州で山崩れ、地裂け泥湧出、死者多数。鳥居・石碑は過半倒る。
1596 年 9 月 1 日 (慶長元)	豊後 M=7.0±1/4	高崎山が崩壊。湯布院、日出、佐賀関で山崩れ。府内（大分）、佐賀関で家屋倒れ。津波（4 m）により大分付近の村里はすべて流れる。大分沖の瓜生島が陥没し 708 人が死亡？
1698 年 10 月 24 日 (元禄 11)	大分 M≒6.0	大分城の石垣壁崩れる。岡城破損。
1703 年 12 月 31 日 (元禄 16)	由布院、庄内 M=6.5±1/4	領内山奥 22 ヶ村で家潰 273 軒、破損 369 軒、石垣崩れ 1 万 5 千間、死者 1、損馬 2。湯布院、大分郡 26 ヶ村で家潰 580 軒、田畑道筋 2～3 尺地割れ。豊後頭無村人家崩れ、人馬死あり。
1705 年 5 月 24 日 (宝永 2)	阿蘇	岡城内外で破損多く、石垣が崩れる。
1707 年 10 月 28 日 (宝永 4) 宝永地震	五畿七道 M=8.6	我が国最大級の地震の 1 つ。被害は駿河、甲斐、信濃、美濃、紀伊、近江、畿内、播磨、富山、中国、四国、九州に及ぶ。特に、東海道、伊勢湾、紀伊半島の被害がひどかった。県内で大分、木付、鶴崎、佐伯で震度 5～6 であった。津波が別府湾、臼杵湾、佐伯湾に來襲した。
1723 年 12 月 19 日 (享保 8)	肥後、豊後、 筑後 M=6.5±1/4	
1725 年 11 月 8 日 (享保 10)	肥前・長崎 M≒6.0	大分有感。
1749 年 5 月 25 日 (寛延 2)	伊予宇和島 M=6.3/4	大分で千石橋破損。
1769 年 8 月 29 日 (明和 6)	日向、豊後 M=7.3/4	震源は佐伯湾沖で大分、臼杵、佐伯で震度 6、国東で震度 5。佐伯城石垣崩れ、城下で家破損。臼杵で家潰 531 軒、半潰 253 軒。大分で城内石垣崩れ 8、楼門破損、家潰 271 軒。杵築で場内損所あり。

表 3-1 大分県の主な地震被害一覧（2）

1841年11月10日 (天保12)	豊後鶴崎	倒家多し。
1854年12月23日 (安政元) 安政東海地震	東海、東山、 南海諸道 M=8.4	被害は伊豆から伊勢湾に及んだ。県内ではゆれを感じた。
1854年12月24日 (安政元) 安政南海地震	畿内、東海、 東山、北陸、 南海、山陰、 山陽道 M=8.4	前日発生した安政東海地震の32時間後に発生した。被害のひどかったのは紀伊、畿内、四国であった。県内では、別府で震度5～6であった。大分藩で家潰4546軒、死者18、臼杵藩で家潰500軒。津波は佐伯で2m。
1854年12月26日 (安政元)	伊予西部 M=7.3～7.5	豊後で上記24日の地震で残った家々の潰が多かった。鶴崎で倒れ屋敷100戸という。
1855年8月6日 (安政2)	杵築	城内破損。
1855年12月10日 (安政2)	豊後立石	家屋倒壊多し。
1857年10月12日 (安政4)	伊予、安芸 M=7 1/4 ±0.5	鶴崎で家屋倒壊3。
1891年10月16日 (明治24)	豊後水道 M=6.3	豊後東部の被害がひどく、家屋、土蔵の亀裂、瓦の墜落あり。直入郡で山崩れ、石垣潰れあり。
1898年12月4日 (明治31)	九州中央部 M=6.7	大分で古い家・蔵の小破、東臼杵郡富岡村で家・蔵の壁に亀裂。
1899年11月25日 (明治32)	日向灘 M=7.1、6.9	2地震発生。大分で土蔵、家屋の破損あり。鶴崎で土蔵潰2。長洲町、杵築町で土蔵破壊。
1909年11月10日 (明治42)	宮崎県西部 M=7.6	南部の沿岸地方で壁の亀裂、瓦の墜落、崖崩れがあった。
1916年3月6日 (大正5)	大分県北部 M=6.1	大野郡三重町、直入郡宮砥村で碑が倒れる。
1921年4月19日 (大正10)	佐伯付近 M=5.8	数日前の降雨により緩んだ崖が崩れ、津久見、臼杵間で機関車が脱線。
1928年11月5日 (昭和3)	大分県西部 M=4.7	北小国地方で崖崩れ4。
1939年3月20日 (昭和14)	日向灘 M=6.5	佐伯、蒲江、津久見、臼杵町で家屋の壁の落下、土地の亀裂などの小被害。
1941年11月19日 (昭和16)	日向灘 M=7.2	沿岸部で多少の被害があった。
1946年12月21日 (昭和21) 南海地震	紀伊半島沖 M=8.0	被害は西日本の太平洋側、瀬戸内に及んだ。津波も発生し、房総半島から九州沿岸を襲った。県内では震度3～5、津波は約1mであった。被害は死者4、負傷10、建物倒壊36、半壊91、道路の破損8。
1947年5月9日 (昭和22)	日田地方 M=5.5	日田町、中川村、三芳村で壁の亀裂、剥落、崖崩れ、道路損壊、墓石転倒などの被害があった。
1968年4月1日 (昭和43) 日向灘地震	日向灘 M=7.5	被害の大きかったのは高知県と愛媛県であった。県内では負傷1、道路損壊3、山崩れ3。津波が発生した。
1968年8月6日 (昭和43年)	愛媛県西方沖 M=6.6	県内では、家屋全焼1、破損1、道路損壊2、山崩れ4。

表 3-1 大分県の主な地震被害一覧 (3)

1975年4月21日 (昭和50) 大分県中部地震	大分県中部 M=6.4	湯布院町扇山、庄内町内山付近を震源。地震前には山鳴り、地震時には発光現象がみられた。震度は湯布院で5、大分4、日田、津久見3であった。被害の区域は庄内町、九重町、湯布院町、直入町と狭かったが家屋の被害はひどく、庄内町丸山、九重町寺床ではほとんどの家屋が全壊または半壊であった。主な被害は次のとおり。(大分県災異誌等による) 庄内町 負傷5、建物全壊31、半壊39、道路破損57、崖40 九重町 負傷11、建物全壊41、半壊34、道路破損84、崖98 湯布院町 負傷6、建物全壊0、半壊24、道路破損21、崖36 直入町 建物全壊5、半壊18、道路破損16、崖4 など
1983年8月26日 (昭和58)	国東半島 M=6.6	国東半島を震源とし、大分、日田で震度3。中津市で民家が傾き、大分市では一時的に停電4万戸。
1984年8月7日 (昭和59)	日向灘北部 M=7.1	大分で震度4、日田で震度3。大分市、佐伯市でブロック塀の倒壊、屋根瓦の破損がみられた。岡城址では三の丸跡に亀裂が生じた。
1987年3月18日 (昭和62)	日向灘中部 M=6.6	大分で震度4、日田で震度3。竹田市、三重町で崖崩れ発生。
1989年11月16日 (平成元)	大分県北部 M=4.8	大分で震度3。日出町でガラスが割れる程度の被害。
2005年3月20日 (平成17)	福岡県西方沖 M=7.0	中津市三光で震度5弱。中津市、日田市で水道施設被害。
2006年3月27日 (平成18)	日向灘 M=5.5	佐伯で震度5弱。佐伯市で道路被害。
2006年6月12日 (平成18)	大分県西部 M=6.2	佐伯で震度5弱。佐伯市で1棟、豊後大野市で2棟の一部破損被害。



<大分県ホームページより>

【参考文献】

- 宇佐美龍夫「最新版 日本被害地震総覧」 (2003)
- 大分県「大分県地域防災計画」 (2007)